

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

#### 小学校：国語

- すべての観点・領域において県・全国の正答率を上回った。日常よく使われる敬語を理解しているかの選択問題以外は無解答率が0%であり、児童の問題に取り組もうとする意欲がうかがえた。
  - （読むこと）では、資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題、資料を読んでまとめたメモに当てはまるものを選択する問題は、正答率100%とよく理解できていた。
  - （話すこと・聞くこと）では、話の内容をとらえ、条件に合わせてどのように話すか記述する問題は、正答率100%とよく理解できていた。
  - 漢字の書き「意外」「期間」、送り仮名のある漢字「比べて」を選択する問題は、ほとんどの子が正解していて（正答率85.7%）、定着していることがうかがえた。
  - △（情報の扱い方に関する事項）では、情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切かをみる問題では、校内正答率57.1%であった。
  - △（書くこと）の図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題で、校内正答率42.9%であった。
- ※学習に対して意欲的に取り組んでいる。しかし、いくつかの情報を整理してわかることを見つけたり、わかることを書いたりすること、自分の考えが伝わるように書くことの指導・支援が必要である。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

- ・かにかっこタイムや週末の宿題において、言語事項に関する問題に取り組ませる。（ことわざ・語彙を増やす問題、熟語、漢字など）
- ・漢字の定着について毎日の宿題でスモールステップの取り組みを継続する。（読み・書き順・書き）
- ・話し合い活動の継続指導を通して、相手の意図を理解したり、それをつないだりして話し合いをまとめていく経験をさせる。
- ・日頃の学習時間に、自分の考えやその理由を書くことを習慣づけ、論理的な思考を深めるようにする。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

#### 小学校：算数

- すべての観点・領域において県・全国の正答率を上回った。すべての問題において無解答率が0%であり、児童の問題に取り組もうとする意欲がうかがえた。
- 大問1（A数と計算）に関する問題は、正答率85%以上でおおむねよく理解できていた。
- 大問2（B図形）に関する問題は、県正答率・全国正答率をはるかに上回り、図形における学習内容の定着が、結果よりわかった。
- △大問4（C変化と関係）の、示された基準量と比較量から、割合になるものを選ぶ問題では、県正答率・全国正答率より低く、28.6%であった。
- △大問4（Dデータの活用）の、運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める問題では、県正答率・全国正答率より低く、71.4%であった。
- △大問4（Dデータの活用）の、二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題では、県正答率・全国正答率より低く、57.1%であった。

※学習に意欲的にとりくんでいるものの苦手意識をもっている問題があるので、定着のための指導・支援が必要である。データの活用に関する問題は学級全体で定着が不足しているので、指導・支援が必要である。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

- ・日頃の学習時間に、課題に対する、自分の考えやその理由を書く時間をしっかり確保し、論理的に考える習慣づけをしていく。
- ・割合・比例に関する問題に苦手意識を持っている児童がいるため、かたっこタイムで下学年の復習をじっくりとおこない、定着をはかっていく。
- ・データから必要な数を読み取るために、データを読み取りグラフに表す問題に取り組み、正確にデータを読み取る力の定着をはかる。また、複数のグラフを見比べる問題に取り組み、グラフの違いに気付かせることで、それぞれのグラフの特徴を理解させる。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

#### 中学校：国語

- 「『落胆する』の言葉の意味として適切なものを選択する」「歴史的仮名遣いの読み方」においては、正答率が県・全国を上回った。
- 「『本の読み方』について書かれた二つの文章に共通する表現の効果を読み取る」「『本の読み方』について書かれた二つの文章それぞれに述べられている内容を読み取る」など、「問題文に書かれている内容を正しく読み取る」問題も、正答率が県・全国を上回った。2年時は「読む」力に課題があったが、要旨を読み取る学習を重ねてきたことが定着につながったと考えられる。
- △「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて書く」「『判じ絵』の具体例から一つを選択し、その解説の仕方を書く」など、「本文の内容に即して自分の考えを書く」という問題は正答率が特に低い。このことから、「与えられた選択肢の中から正しいものを選ぶ力」には定着が見られるが、「文章を読んで理解したことを自分の知識や経験と結びつけて考える力」、「自分の考えが相手に伝わるかどうか考えて書く力」には課題があると考えられる。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

- 書くことの指導の充実
  - ・自分の考えが相手に伝わる文章を書くために、「自分の考えを根拠を明確にして書く」学習を設定して指導する。また「読み取った情報を、自分の知識や経験につなげ、自分の意見を書く」という学習活動を設定して指導する。
- 漢字や語句の指導の充実
  - ・小テストの回数を増やし、定着を図る。
- 長文を読み慣れる指導の充実
  - ・授業の中の小テストに読解問題を取り入れる回数を増やす。
  - ・長文に抵抗がある生徒が多い。家庭学習にも読む学習を取り入れて、速く読む力を育てる。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

#### 中学校：数学

- 図形の証明における「証明を振り返って間違いを読み取る」問題、一次関数の「問題解決の方法を数学的に説明する」問題、データの活用の「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題において、全国よりも正答率を上回ることができた。
- △平行の証明における「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明を記述する」問題で、無回答率が57.1%と非常に高く、証明に必要となる定理（条件）が身につけていない生徒が多く見られた。
- △数と式の「自然数の意味」、関数の「反比例の意味」、データの活用の「累積度数の意味」については正答率を大きく下回った。
- △生徒個人に着目してみると、平均正答率を下回った生徒が14人中9人という結果であった。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

- 数と式では理由の説明をする活動を、図形では作図の性質を理解した上での証明や説明の問題を、資料の活用ではことばやグラフ、図の意味をしっかりと理解させた上でそれぞれの値を求める問題を長期休業中や年度末に復習する場を設定する。
- 関数では、二次関数の学習をする際に、一次関数や比例反比例を復習する場を盛り込んでいく。
- 目標値を下回った生徒への指導として、日々の授業の始まりに、その単元の復習となる基礎・基本的な問題に取り組み定着を図る。
- 引き続きTTによる2人体制で困りのある生徒の支援を行う。授業の内容によって習熟度別の形式を取り入れる。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

### 1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

#### 中学校：英語

- 自分の置かれた状況をふまえ必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする力は全国平均を上回る。
- 短い文章の概要や要点を読み取る力は全国平均をわずかながら上回る。
- △事実と考えを区別して読む力が県平均より低い。また、日常的な話題の概要をとらえることは県平均を上回るが、社会的な話題の要点をとらえることは県平均を下回る。このことから具体的な話題は理解できるが抽象的な話題を理解することに困難を有していることが分かる。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：英語

- 教科書だけでなく学習プリントも使い、多読を行うことでさまざまなジャンルの文章に慣れ、抽象的思考力を育てていく。
- 授業では、社会的な話題を読むときに自分の考えを持たせることによってその文章を主体的に取り組ませる。
- 語彙力の不足、および、演習問題量の不足により「書くこと」が伸びていないため、授業の最後に短文を書く活動を取り入れていくことで単語テスト等で覚えた語彙を使う機会を多く作り、状況にあった英文を書くことができるようにする。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童質問紙）

### 1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

#### 児童質問紙

- 国語よりも算数に対する意欲が高い。調査では、算数が無回答率ゼロだったことから意欲的に取り組んでいたことがわかる。
- 早寝、早起き、朝食などの基本的な生活習慣は、家庭の協力もあり定着できている。
- 家庭学習も自分で進めていく習慣がついてきている。
- 地域や社会、生活の向上のために役に立とうとする意識が高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」については、同じように評価が分かれているものの県・全国に比べて肯定的評価が高い。
- △読書や新聞に対する関心が低い。
- △課題を解決しようとしたり、学習を振り返り次に活かそうとしたりする意欲が低い傾向にある。
- △「自分には、よいところがあると思いますか」については、肯定的評価、否定的評価に分かれているが、県・全国に比べて肯定的評価が低い。

### 2 児童質問紙の調査結果をふまえて

- ・読書や新聞等活字に触れる機会を意図的に設定したり、集会や読書カード等の工夫をしたりすることにより、関心や意欲を高めていきたい。
- ・授業の中での①課題の引き受け②ふり返りととらえると、課題提示までの流れの工夫や課題提示後の丁寧な見取り、視点を明確にしたふり返りの設定等授業改善を更に進めていく必要がある。
- ・縦割り班を使った活動を意図的・計画的に実施したり、教育活動全体において視点を明確にした振り返りをおこなったりすることにより、自己肯定感を高めていきたい。
- ・人間関係づくりプログラム等を計画的・継続的に実践したり、子ども捉えを全教職員で共有し指導・支援の充実を図ったりすることにより、互いに認め合い支え合い高め合う学級集団をつくっていく必要がある。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

#### 生徒質問紙

- ・ 学習に関する興味・関心
  - △授業において、積極的に他者と協働して考えたり、考えを深めたりすることができていないと感じている生徒が多い。
  - △わからない部分を見直したり、質問したりする生徒の割合が少ない。
- ・ 生活習慣・学習習慣
  - 早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣は、かなり定着できている。
  - △学習習慣は、家庭学習時間が30分から1時間程度が多く、不足している。
  - △平日において、端末機の使用時間が平均よりもかなり多い。

### 2 生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・ 地域の方々との交流や、行事への参加は大変良くできているので、今後とも学校と地域が連携して教育活動を行っていくようにする。
- ・ 自分の進路実現に向け、1日2時間（土日は4時間）以上の学習をするように、1日の計画を立てさせ、実行するように声かけをする。できない生徒については、放課後学校で学習させるようにする。
- ・ 授業における ICT 機器の活用について、効果的な活用方法について授業改善を図る。
- ・ 希望する生徒に対して個別の指導を行い、個人の進路実現に向けた学習をさせる。

# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

#### 小学校：学校質問紙

- ICTの活用により、校務の効率化が進んできている。
- 地域や家庭と連携した教育活動を推進することができている。
- 地域や保護者に対して、ホームページや学級通信等で情報発信をすることができている。
- △子どもの困りに対する対応や教職員への指導等について、組織的な取組が十分ではなかった。
- △授業におけるICT機器の有効的な活用までには、至っていないのが現状である。研修も十分できていない実態がある。そのため児童のICT活用能力を十分育てていない。
- △「思考力・判断力・表現力」については、授業改善や教育活動の工夫等に取り組んできているものの十分とは言えない。
- △英語に触れる機会が少なく、教職員の研修も十分ではない。

### 2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・各主任を中心とした校内支援体制の充実を図る。
- ・ICT支援員を活用した研修を計画的に実施する。
- ・若手教職員の授業力向上とベテラン教職員の指導力向上に向け、人材育成を計画的・組織的に推進する。
- ・英語教育に関する研修等への参加を推進すると共に、ALTや中学校の英語教員等の活用の充実を図る。



# 【 姫 島 村 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

#### 中学校：学校質問紙

- ・各教科の指導方法
  - △英語において、スピーチやプレゼンテーションなどの言語活動をあまりできていない。
  - △各教科において、タブレットの使用 방법에工夫が必要である。
- ・家庭学習
  - 家庭学習の課題について、校内の教職員で共通理解を図り、生徒の現状に合わせた課題の作成を心がけている。
  - 家庭学習に関して、毎日の日記に学習時間を記入し、担任を中心にそれぞれの学習に対する指導・助言を行っている。
- ・家庭や地域との連携等
  - △教育課程の趣旨を地域と共有する機会が少ない。

### 2 学校質問紙の結果をふまえて

- 教職員の授業改善・校内研究の推進
  - ・ICTの効果的な活用方法の検証・実施。
  - ・キャリア教育の視点を踏まえた授業構想・言語活動の実施。
- 学校経営
  - ・社会に開かれた教育課程の実現